

## NEWS 絆

## 東北生産性本部

## 第42回仙台シンポジウム7月例会開催

## 「デジタルシフトによる地方創生」 ～会津におけるスマートシティ実現に向けて

第42回仙台シンポジウム7月例会は、アクセンチュア(株)イノベーションセンター福島センター長 中村彰二郎 氏を迎え、約70名の参加を得て開催いたしました。

### ■7月例会（2019年7月18日開催）

講師 アクセンチュア株式会社 イノベーションセンター福島

センター長 中村 彰二郎 氏

プロフィールなど

1963年生。長年アプリケーション開発に携わり、2002年サン・マイクロシステムズで、e-Japanプロジェクトを担当、11年アクセンチュア(株)に移籍、東日本大震災以降は復興のために設立した福島イノベーションセンター長を務める。会津若松市と会津大学、同社の三者協定からスタートしたスマートシティプロジェクトが、2018年総務省「情報通信月間」総務大臣賞を受賞。本年4月同市に500名規模のICTオフィスが竣工。公職は、内閣府未来技術×地方創生検討会委員、経済産業省クールジャパン政策研究会委員等多数。

### 【ご講演要旨】

- ・地方創生に向けた循環として、次のプロセスが考えられる。
  - ①現状とありたい状態⇒②参考となる成功事例⇒
  - ③実証検証⇒④設計図・仕様⇒⑤認定・認証⇒
  - ⑥情報発信・営業⇒⑦誘致拡大・転入増
- ・会津には、豊かな再生可能エネルギー、誇れる歴史・文化・観光・自然・農業、充実した医療環境、ICT専門の会津大学があった。
- ・以上の条件を生かし、復興から地方創生に向け「会津創生8策」を策定した。
  - ①一極集中から機能分散へ、②少子高齢化対策としてのテレワーク推進、③予防医療充実のためのPHR（健康寿命国）、④データに基づく政策決定への移行、⑤高付加価値産業誘致と企業支援、⑥観光・農業・製造業の戦略的強化と生産性向上、⑦再生可能エネルギーへのシフトと省エネの推進、⑧産学官による高度人材育成
- ・本社機能のうち、東京でしかできない業務は3割程度であり、残り7割は分散できる。各企業が



分散を進めれば東京の人口は最適化できる。今後成長が期待できるAIなどは東京になくてもよい。

- 成功事例としては、デンマークの医療・産業クラスターの「メディコンバレー」などがある。GAF Aのビッグデータよりも市民が出したデータ（医療データなど）のほうが価値がある。このデータの活用により市民は健康、市は医療費負担軽減、運営企業はデータ提供による収入が得られ三方良しとなる。
- スマートシティを持続的に展開するには、CO2削減や省エネなどマイナス面の削減だけでなく、魅力を強化し、プラス面を創出する戦略を策定することが必要。市民が住みたい町、企業が立地したい町、観光客が訪ねたい町にするなど。
- 外国人観光客の誘致には英語版HPを作るだけではダメ。会津若松では世界中から700人に来てもらい町中をみてもらった。二次交通がわからない、カードが使えないなど観光客に優しくない町であることが分かった。観光客の出身国により興味のある分野が違うのでHPも言語で内容を変えた。これらの結果、外国人宿泊客は、2017年には前々年比で5.3倍になった。
- スマートシティは行政が考えることではなく、市民が発想するもの。それをどう事業化するかはそれぞれの立場・産業の人が考える。

以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。

#### 第42回仙台シンポジウム (2019年度)

\*会場：仙台商工会議所会館7階 大会議室

#### 8月例会 2019年8月2日(金) 13:30~15:00

『参議院選挙の検証と今後の政局』

講師：政治アナリスト 伊藤 惇夫 氏

#### 9月例会 2019年9月2日(月) 13:30~15:00

『労働力喪失時代の“スマートエコノミー”を目指して』

講師：産業戦略研究所 代表 村上 輝康 氏

#### 10月例会 2019年10月16日(水) 13:30~15:00

『最近の事象から見るコンプライアンスの在り方』

講師：中央大学法科大学院 教授/弁護士 野村 修也 氏

#### 11月例会 2019年11月13日(水) 13:30~15:00

『人口減少時代における労使の役割』

講師：日本労働組合総連合会 会長 神津 里季生 氏

#### 12月例会 2019年12月3日(火) 13:30~15:00

『2020年 世界の潮流を読む』

講師：(一財)日本総合研究所 会長 寺島 実郎 氏